

## カ. 住民投票に対する評価、説明会などへの参加

問4 今回、市庁舎整備をめぐる問題について鳥取市が住民投票を実施したことは、良かったと思いますか。

		【旧鳥取市】	%
1	良かった	369	66.1
2	良くなかった	68	12.2
3	どちらともいえない	115	20.6
99	無回答	6	1.1
	合計	558	100.0

		【旧町村部】	%
1	良かった	385	61.0
2	良くなかった	81	12.8
3	どちらともいえない	159	25.2
99	無回答	6	1.0
	合計	631	100.0

問5 鳥取市では昨年、市庁舎整備に関する市民向けの説明会や懇談会が数多く開催されたほか、昨年2月には、市庁舎整備に関するフォーラムも行われました。あなたは、これらの説明会に一度でも参加したことがありますか。

		【旧鳥取市】	%
1	参加したことがある	74	13.3
2	参加したことはない	480	86.0
99	無回答	4	0.7
	合計	558	100.0

		【旧町村部】	%
1	参加したことがある	86	13.6
2	参加したことはない	542	85.9
99	無回答	3	0.5
	合計	631	100.0

市庁舎整備をめぐる問題について住民投票が実施されたことへの評価を尋ねた問4では、「良かった」と答えた人が旧鳥取市で約66%、旧町村部で61%に上る。佐久市の調査で旧市・旧町村部ともに「良かった」が7割前後に達したのと比べると、若干低い数字ではあるが、住民投票の実施については多くの鳥取市民が評価していると言える。ただ、この数字はあくまでも、本調査を実施した投票直後の時点での市民の評価を表したものであり、「耐震改修案は実現不可能」との検証結果が示されたことを踏まえたうえで同様の質問をすれば、居住地域に関わらず意見分布は大きく変わる可能性も考えられる。

投票行動との間でクロスデータを取ると、耐震改修案に投票した人は85%程度が「良かった」と回答している一方、新築移転案に投票した人に関しては、今回の住民投

票に対する評価は「良かった」「良くなかった」「どちらともいえない」に概ね三分される。つまり、新築移転案を選択した有権者に限ると、本調査を行った投票直後の時点で、住民投票の実施について肯定的に捉えていたのは3分の1強にとどまっており、投票の結果少数派となった新築移転案の支持者にとっては、やはり評価の難しい住民投票であったと言えそうである。

続いて、鳥取市の市庁舎整備をめぐっては投票前年の2011年を中心に、多くの説明会や懇談会などが行われ、例えば市庁舎整備に関する地域説明会は、同年1月22日から30日、5月15日から22日、10月18日および22日に市内各地で開催された。ただ問5にあるように、これらの説明会に一度でも参加したことがあると答えた人は、回答者全体の1割強にとどまる。説明会に参加した人の約9割は住民投票で投票したと答えており、有権者全体の中でも特に関心の高かった人々であると捉えることができる。住民投票の直前には市や議会の開催による説明会は行われなかったが、投票実施が決まることで市民の関心が喚起される側面も多分にあり、住民投票に際して改めて説明会の開催を求める市民も潜在的に一定程度いたと思われる。

## キ. 市庁舎整備をめぐる問題の重要度

問6 市庁舎整備をめぐる問題は、市政全体の中での検討課題として、どの程度重要だとお考えですか。この中から一つ選んで○を付けてください。

【旧鳥取市】			％
1	かなり重要である	178	31.9
2	ある程度重要である	229	41.0
3	どちらともいえない	60	10.8
4	あまり重要ではない	68	12.2
5	全く重要ではない	17	3.0
99	無回答	6	1.1
	合計	558	100.0

  

【旧町村部】			％
1	かなり重要である	185	29.3
2	ある程度重要である	256	40.6
3	どちらともいえない	78	12.4
4	あまり重要ではない	80	12.7
5	全く重要ではない	23	3.6
99	無回答	9	1.4
	合計	631	100.0

本報告書の冒頭でも述べたように、一般的に住民投票には、間接民主制を「補完」する役割が期待されている。すなわち、我が国の地方自治においては、二元代表制が機能不全に陥った際のいわば「最後の手段」として、重要課題に対する判断を直接住民にゆだねることが想定される。ただ、その場合に、政策決定に対し直接意思表示することになる住民自身が、争点となる政策課題の重要性をどのように認識しているかによって、住民投票の持つ意味も変わってくる可能性がある。そこで問6では、住民自身が市庁舎整備をめぐる問題について、市政全体の中での検討課題としてどの程度重要だと考えているかを尋ねている。

「かなり重要」と「ある程度重要」の合計で見ると、旧鳥取市で約73%、旧町村部でも約70%が重要であると考えており、市政全体の中で市庁舎整備をめぐる問題は、市民の間でも重要な問題として認識されていると言える。ただ旧市、旧町村部ともに、重要度の認識と投票行動との間に何らかの明確な傾向を読み取ることはできない。